

サービス産業に関する年次構造統計調査の整備に関する論点メモ（素案）

平成 20 年 1 月 23 日

廣 松 毅

1 サービス産業に関する年次構造統計の整備の考え方について

(1) サービス統計に関するニーズ

- ・ ニーズの重要性、緊急性を踏まえ、優先させるべきニーズは何か。

(2) ニーズを踏まえて整備する際に留意すべき事項

- ・ 政府において予算・人員等の減量、効率化が進められている現状 等

2 サービス統計の整備の視点について

(1) 上記 1 に照らし、現在の統計の整備状況は十分か。

未整備の産業がある場合、短期的に優先的に整備すべき産業、中長期的に整備が必要な産業は何か。

既存情報（調査票情報の二次利用、民間統計、行政記録情報等）の有無、それらの利活用の可能性について留意する。

現在整備されている統計調査について、どのような問題点があるか。問題点に対して、どのような改善措置が必要か。

調査事項

調査客体の選定方法（調査単位、把握方法、標本設計）

調査方法（報告者の協力確保の観点）

既存統計調査の統廃合

その他

平成 21 年経済センサス（仮称）の実施により、事業所・企業のよりアクティビティに近い母集団情報が、さらに、平成 23 年経済センサス（仮称）実施により全ての事業所・企業に関する売上高等まで収録された母集団情報が整備されることから、現在より調査設計のバリエーションが広がることにも留意する（これまで全数調査で行っていたものを標本調査化する等）。

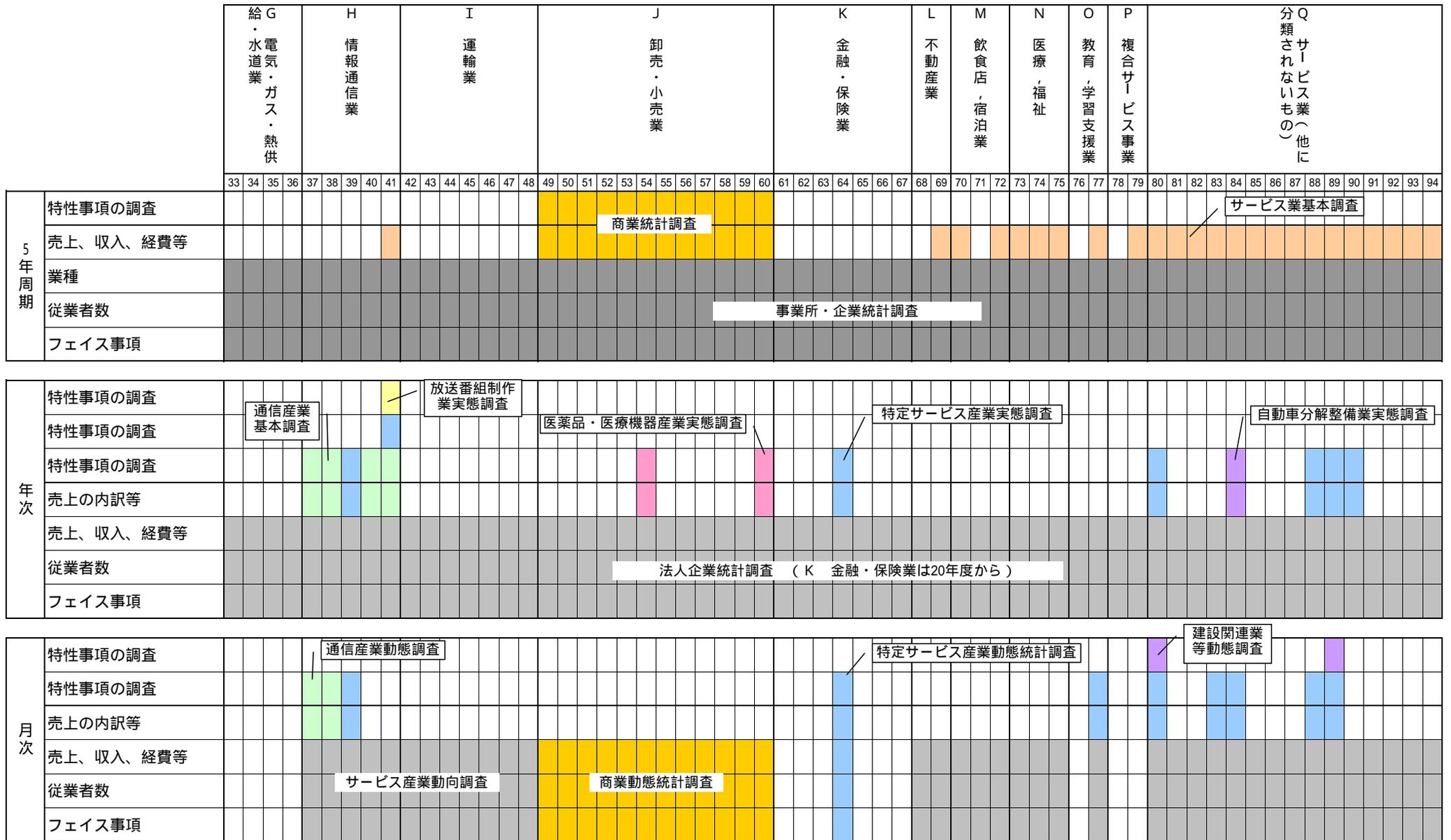
(2) 上記 2 - (1) を踏まえ、サービス統計の整備に当たっては、例えば「整備計画」等の策定が必要ではないか。

3 その他

(1) サービス統計の整備に向けた見直しに当たって考慮すべき事項について、どのように考えるか。

(2) サービス統計の整備を行うため、調査実施者、審査部局等に求められることは何か。

サービス分野に係る統計調査の整備状況（イメージ図）



(注) 1 「特性事項の調査」欄は、同じ産業分類について特性事項を把握する調査がいくつあるかを表す。
 2 「フェイス事項」は、事業所（企業）名、所在地、電話番号、経営組織等を表す。